



# ほっとinみえ

2019年7月発行

第39号

三重県民生委員児童委員協議会

広報啓発委員会

事務局：三重県社会福祉協議会内

TEL：059-227-5145

FAX：059-227-6618

## ふるさとをたずねて 900年の伝統を持つ 御頭神事 たかぶく 伊勢市御園町高向



昭和52年、国の重要無形民俗文化財に指定された度会郡御園村高向（現伊勢市御園町）の御頭神事は900年の伝統を持つ。

御頭神事は、昔から伊勢市をはじめ宮川下流の両地域で行われていたようである。高向の神事は、神領山田の系統に属するものと言われている。

高向郷にあった正法寺の言い伝えによると、養和年間（1181～1182年）に村内に悪疫が流行し、多くの人々が病にかかり死んでいった。人々はなす術もなく困っていた。この時、正法寺の住職に育てられていた神童と言われる12歳の木昌少年（宇須野乃社の社頭にあった神木大杉から化生した木の精と言われる）が神庫から御頭を出して、村の長老や役人を従えて村内を回り祓い淨めの舞を踊った。そうすると悪疫もおさまり、村人はその後、平穏に暮らすことができたという。

現在、御頭神事は2月の第2土曜日に行われています。



早朝に公民館から御頭を入れた唐櫃からとがだされ、高向大社へと向かい儀式を行い、2人の舞い手による舞楽を奉納の後、悪魔払いに村中を練り歩く。神事の夜の行事は、打うち祭まつりと呼ばれ総勢40人ほどの若者が松明を火の粉が降り注ぐもとで、30キロの重さの御頭を2人の若者が激しく振り上げ絶叫するなど、熱気と興奮の渦は、周りの観衆を魅了しながら、深夜まで及ぶ。



## 目次

・平成30年度三重県民生委員児童委員ブロック別研修会	1
・相談に関する研修会・中堅（専門）研修会	2
・平成31年度事業計画・収支予算	3
・地域版活動強化方策の推進に向けて 機関紙 view の紹介	4
・防災についての単民児協の取り組み 度会郡大紀町	5
・単位民児協活動紹介 松阪市幸地区民生委員児童委員協議会	6
・障がい者福祉について・ちょっと一言・編集後記	7

# 平成30年度三重県民生委員児童委員ブロック別研修会

平成30年11月から平成31年2月にかけて、県下8会場で開催されました。

演題 『生きる意欲を支える援助の輪

～子育て、思春期、シニアの心理の理解と援助～』

講師 梅花女子大学 心理こども学部長

梅花女子大学大学院 現代人間学研究科 研究科長

教授・博士（社会学） 太田 仁氏



松阪多気ブロック会場に参加して

巧みな話術に引き込まれて一生懸命聞き入ってしまい、あっという間に研修時間が過ぎてしまいました。私たちの周りで日常的に起こっている出来事について、その時人の心理を「対人関係の心理学」の観点からお話ををしていただきました。

○母親が「ながらスマホ」をしていると赤ちゃんと正面を向いていないので、赤ちゃんは母親の顔を識別できない。

○子どもの前で夫婦喧嘩をすることも虐待になる。このことは喧嘩の多い家庭で育つと、子どもが安心して居る場所がないからである。

○子どもたちに声をかける（声掛け）ことは、子どもたちにとって地域の中に自分の事を見てくれているという安心感を持ち救われる。

○いろいろな人と触れ合うことが大事である。⇒ 長寿の秘訣

○人に助けを求めるには勇気が必要である。

他にもたくさんの事例を笑いを交えてお話し下さい、その場面、場面で私たちはどのような支援をすればよいのか、活動のヒントをいただきました。また、「地の人は地の人でないと救えない。これが民生委員児童委員活動である。」という先生の言葉を糧に、地域の人とのコミュニケーションを大事にして活動していくこうと思いました。

中勢ブロック会場に参加して

地域のつなぎ役として民生委員・児童委員に何ができるのか考えること

年を重ねたからこそ出来る支援＝民生委員！

◆ 地域の困窮者は地域の人が助ける

しかし、出来ないことは出来ない～ただ、誰かにつないだらよいのであってきっぱりとした行動が必要

◆ 自分のケアを忘れないで

自分が楽しんだりリラックス出来る活動に取り組む。定期的な運動をすること。

自分にやさしくすることで心と体のしなやかさを準備

◆ 助けたいのに拒否され誤解され恨まれるとき

感動・・・出会い喜びを忘れない

緊張・・・旧知の間柄でも適切な距離感を大事にする

工夫・・・役割や価値観の共有と転換

敬意・・・一緒にいてくれる仲間への感謝を忘れない

行動・・・百の言葉よりも一つの行動を大切に

◆ ～ただ会いに行くというだけの援助～

してあげられること・かける言葉がないときに

周囲の人があきらめても一緒にいてあげよう

ただひたすら一緒にいるという援助もあるよ！



## 相談に関する研修会

講義  
講師

「～聞くと聴く～」  
シニア産業カウンセラー  
太田 克子 氏

平成 31 年 2 月 28 日（木）に、民生委員・児童委員活動の基本となる相談援助についての考え方や方法などを学習し、理解を深めることを目的に『相談に関する研修会』が開催されました。

講義は相談員としての心構えからスタート、何でも気軽に相談できる雰囲気、気分をそれとなく作り出し、対話している相手の感情を察知できる感受性を持つ事、またコミュニケーション力を身につけていることが大切であり、相手とキャッチボールすることで信頼関係が出来てサポートにつながる、個別対応におけるマナーとは相手の立場に立って、相手を思う気持ちがあつて初めて良好な人間関係がスタートします。気持ちを形にして伝えていくことが大事にしたいマナーの原点だとされました。

### 安心や信頼につながるマナーの 5 原則として

- 1) 表情（笑顔）
- 2) 身だしなみ
- 3) 立ち振る舞い・お辞儀
- 4) 挨拶
- 5) 言葉づかい

### コミュニケーションの実際として

- ・伝える力 気持ちや情報は整理してから口に出す。相手に伝わるように話す。
- ・聴く力 相手の話に关心を持ち共感的に聴く、適宜うなずき、あいづちをいれる。
- ・観る力 相手の表情、身体の動きを観察。自分自身の表情や態度にも気付く事ができる。

### 聴き上手になるためのポイント

- 1) 話の途中で口を挟まない
- 2) 相づちを打つ
- 3) 話のキーポイントを繰り返す
- 4) 気持ちを受け止める
- 5) 半歩リードする（気になるところを質問）
- 6) 励ましやいたわりを述べる

講義が終わって最後に 2 人一組になり傾聴トレーニングを実施しました。

聴き入る態度、繰り返し、要点の確認、明確化、くみ取る努力、最後に相手の発言や態度に対して励ましやいたわりを述べる事ができるようになるには、相談の回数を重ね経験を積む努力が必要であると痛感しました。民生委員・児童委員は支援が途切れないように見守る役目は勿論のこと、必要な支援者、相談機関につなぐ重要性も再認識できた意義ある研修会でした。

## 中堅（専門）研修会

### 第一部：

講演 テーマ「地域のつむぎ役となろう」

講師 合同会社 泉恵造研修企画工房代表社員  
泉 恵造 氏

### 第二部： グループディスカッション

「喜怒哀楽を振り返ろう！」

平成 31 年 2 月 18 日に各単位民児協の中堅委員 150 名が参加して二部構成での研修会が行われました。

第一部は表題の通り泉恵造講師による「地域のつむぎ役」になる為のノウハウの講義があり、今最も大きなテーマである「地域共生社会」の実現にむけて、行政をはじめ各地域関連団体との協働の大きな役割を私たち民生児童委員が担って行く必要性を説明いただきました。

第二部は今後の活動の一助として 5~6 名ずつのグループに分かれ「喜怒哀楽を振り返ろう！」というテーマで各自の体験談や悩みについてディスカッションを行いました。これにより他の地域の問題点や単位民児協毎の活動内容にふれる事が出来て大いに参考になりました。

# 令和元年度事業計画

## 《基本方針》

平成29年度、民生委員制度は創設100周年、児童委員制度は70周年を迎えました。全国民生委員児童委員連合会においては、今後の活動の重点等を示す「民生委員制度創設100周年活動強化方策」が定められ、更に地域の実状をふまえた「地域版 活動強化方策」の作成を呼びかけられています。

本年度は委員の一斉改選が実施されますが、民生委員・児童委員には多様化、複雑化した地域の実状や課題を踏まえ、明確な目標を持った活動が引き続き求められています。

地域の実状とこれまでの活動の成果を振り返り、地域福祉の充実への決意を新たにし、地域に根ざした民生委員・児童委員活動を今後も更に発展させていくことを目指し、以下の事業に取り組みます。

## 《重点事業》

- 1、新任民生委員・児童委員の資質向上・定着に向けた取り組み
- 2、「地域版 活動強化方策」作成支援の取り組み
- 3、生活困窮者、子ども、高齢者、障がい者等の見守りの取り組み
- 4、地域共生社会の実現に向けた取り組み
- 5、地域の関係諸団体との連携強化の取り組み

## 令和元年度収支予算

収入の部		(単位：千円)	
区分	額	区分	額
会費	15,527	受託金	1,207
補助金	1,445	雑収入	161
繰入金収入	1,103	繰越金収入	3,072
負担金収入	0		
		合計	22,515
支出の部		(単位：千円)	
区分	額	区分	額
事務費	3,251	繰出金	1,049
事業費	6,147	雑支出	120
民生委員大会費	1,103	予備費	1,907
負担金支出	8,938		
		合計	22,515

## 平成29・30年度授章・被表彰者一覧

### ・平成30年度春の瑞宝双光章

中山 啓圓(桑名市)

### ・平成30年度秋の瑞宝双光章

丸橋 恒子(津市)

### ・平成29年度厚生労働大臣表彰

淺井 榮二(松阪市)、磯部 幸枝(津市)

金児 美和子(津市)、佐藤 美子(桑名市)

柴垣 幸子(桑名市)、下田 鈴(御浜町)

新貝 淑子(桑名市)、野村 紀代(松阪市)

蛭川 和代(桑名市)、前野 邦子(松阪市)

### ・平成29年度全国社会福祉協議会会长表彰

磯部 幸枝(津市)、吉田 四郎(鈴鹿市)

塩津 史子(尾鷲市)、館 純子(四日市市)

福田 勝二(津市)、大戸 房子(松阪市)

### ・平成30年度厚生労働大臣表彰

高井 俊夫(四日市市)、永井 良美(東員町)

長島 明子(松阪市)、林 三幸(鈴鹿市)

### ・平成30年度全国社会福祉協議会会长表彰

北角 昌廣(津市)、長島 明子(松阪市)

伊藤 和子(東員町)、村上 純孝(伊勢市)

濱口 喜美(熊野市)、濱川 るり子(名張市)

原田 豊子(四日市市)

※昨年度3月開催の代議員会にて記念品をお渡しいたしました。おめでとうございました。

# 【地域版活動強化方策の推進に向けて】

## ～民生委員制度創設100周年活動強化方策の具体的展開に向けて～

昨年公表されました「民生委員制度創設100周年活動方策」で地域の実情や課題をふまえた「地域版活動強化方策」の策定を呼びかけたことを受け、各地で「地域版活動強化方策」策定に向けた議論や検討がされています。今回のほっとinみえでは、同志社大学大学院 上野谷加代子氏、高崎健康福祉大学 金井 敏氏、愛知県社会福祉協議会 石黒 学氏、全国民生委員児童委員連合会 藤目真皓氏による「地域版活動強化方策」作成の意義やねらい、策定の進め方等についての座談会が行われましたので、その内容から要点を抜粋しました。

**【金井先生】** 2003年に施行された個人情報保護法により、行政からの情報提供が少なくなり、そうした中で、民生委員活動は次第に地域活動を増やしていくようになりました。役割が変容し、地域課題が複雑化・多様化している中、民生委員や単位民児協の負担感が増してきました。活動強化方策には、こうした地域での負担軽減をサポートしていきたいという思いがあります。まず、それぞれの民生委員が日ごろの地域活動に取り組むにあたっての想いや考え、自分なりの活動スタンスのようなものを確認し、その想いを単位民児協のみんなで共有し、その共有を積み重ねたものが結果として単位民児協の活動のあり方を決定し、その地域の方向性を示すことになると考えています。

**【上野谷氏】** 今は、地域福祉の時代と言われています。100周年方策では複雑化・多様化する地域ニーズに対して、民生委員が地域の様々な関係機関と共に、組織的に活動していく必要性が求められていることをふまえ、重点を3つ掲げています。

**【藤目氏】** この100年間の歴史の中で、民生委員の基本的な活動は、見守りと情報提供でした。ただ、地域関係が希薄化し、サービスや情報が増えていく中で、民生委員の仕事が幅広くなっています。制度創設100年目を迎えて、これから民生委員活動を考えるうえでは、「自分ひとりでやる必要はないんだよ」「単位民児協で協働し、みんなと一緒に活動していくんだよ」という活動の広がりを提示し、安心してもらえるようにしていきたい、と思っています。

### 下記に重点活動

## ★100周年強化方策が掲げる3つの重点活動★



### 重点1: 地域のつながり、地域の力を高めるために

- (1)自治会、町内会活動と民生児童委員活動との連携強化
- (2)一聲運動、挨拶運動を通じたつながりの強化
- (3)子育てを支援する地域づくりの推進

### 重点2: さまざまな課題を抱えた人々を支えるために

- (1)積極的な訪問活動を通じた住民との関係づくりの推進
- (2)住民の代弁者としての意見具申、提言活動の強化
- (3)社会福祉協議会との一層の連携・協働
- (4)出張相談会等を通じて相談の「入り口」を広げる
- (5)社会福祉法人・福祉施設との積極的連携
- (6)共同募金への協力と民児協活動での活用

### 重点3: 民生児童委員制度を守り、発展させていくために

- (1)単位民児協の機能強化による民児委員への支援
  - ①財政基盤及び事務局機能の確立
  - ②民生児童委員からの相談に対する専門的助言体制等の整備
  - ③定例会の充実
  - ④全員参加と役割分担による運営
  - ⑤複数委員によるチーム活動、班活動の積極的導入
- (2)都道府県・指定都市民児協による委員支援
- (3)民生児童委員候補者の選任方法の多様化
- (4)地域住民への積極的なPR活動の展開

# 防災について・単位民児協の取り組み紹介

大紀町 錦地区 大紀町民生委員児童委員協議会

## 総合的な災害対策で、かけがえのない住民の命を守る

大紀町で唯一、海岸部に位置する錦地区は、昭和 19 年の東南海地震による地震・津波災害により 64 人の尊い人命と多くの財産を失いました。

この惨禍を教訓とし、一人の犠牲者も出さない取り組みを進めるため、錦地区には 2 か所の津波避難タワーや高台を利用した 29 か所の避難所が整備され、どこからでもすぐ避難できるようになっています。そのほか、平成 26 年からは、減災対策として防潮堤の整備を進めています。

また、ソフト面においては、地区住民・行政・消防・自主防災組織などが連携し、津波避難訓練や炊き出し訓練、ワークショップ、防災教育、災害時要支援者対策などに取り組み、いつ起るか分からない大地震に備えています。

そのような中、私達民生委員・児童委員は、防災町民会議の構成員として、これから



「錦タワー(手前)と第 2 錦タワー(奥)」



「小学生による津波避難訓練の様子」

の防災・減災対策について関係機関と協議・連携を図っています。また、地域・自主防災組織の一員として、様々な活動に取り組み、地域の防災力の向上に努めています。また、津波に対する防災意識が高く、毎月の定例会では、活発な議論や情報交換を行っています。いざという時、地域のことは地域全体で助けていく「共助」の重要性が認識されている中、民生委員としてできることを日々模索しています。

# 単位民児協紹介

## 松阪市幸地区民生委員児童委員協議会

### ○地区の概況

当地区は、市の中心部にある松坂城跡から西南に広がる市街地にあり、地区内には約3,800世帯、約8,000人が生活しています。高齢化率は30%を超え、昨年10月の高齢者実態調査では、65歳以上の1人暮らしの方が444人、80歳以上の方のみの世帯が87世帯となっています。

近年、市役所、市民病院などの公共施設や商業施設が近いこともあり、アパートやマンションのほか戸建住宅も増えていて、昨年4月には市内ではじめての小規模児童養護施設「美鈴の家」も開設されています。

現在、19名（うち主任児童委員2名）の民生委員・児童委員が活動しています。



### ○民児協としての活動

- ・定例会（毎月・第1月曜日）
- ・役員会（毎月・第4月曜日）の開催
- ・委員の活動に必要な時宣に応じた研修会を開催するほか、専門部会を設け各部会ごとに事業を計画・実施
  - 高齢者・・・・・・・介護保険、施設入所の手順についての研修など
  - 障がい・・・・・・・県立あゆみ特別支援学校の訪問など
  - 児童・生活援護・・・・幸小学校との懇談会の開催など
- ・第一地域包括支援センターと「地域ケア会議」の開催

### ○「幸まちづくり協議会」への参画など

平成24年の発足時から、すべての委員が「協議会」のいずれかの部会の企画・運営に参画し、日頃の活動につなげています。

- ・福祉部会・・・・・・・朝の「あいさつ運動」、幸小学校の生徒が高齢者の方宛に書いた手紙を添えて「お弁当」をお届けなど
- ・住部会・・・・・・・「幸 てくてく100人ウォーキング」など
- ・安全・安心部会・・・・「避難所運営ゲーム」など

また、第一地域包括支援センターが行う幸小学校5年生を対象とした「認知症キッズサポーター養成講座」、松阪市社会福祉協議会が行う障害児を対象とした「児童発達支援地域スクール」などにサポーターとして参加しています。

# ～障がい者福祉について～

## 接し方における注意点をお聞きしましたので紹介します。

会話のキヤッヂボールは苦手で緊張するが、買い物など自分が主導権を持った会話はあまり緊張しないとのことです。

私たちの「何でもない普通の事」と思っている言動でも重なると、パニックを起す事が有るとの事です。その場合は私たちが冷静になり、騒がずに静かな時間を保つことでパニックが治まる事が多いとの事です。

知的障害をもった中年男性で仕事に就いている方と面談をしました。

2016年4月に施行された障害者差別解消法の合理的配慮は、行政機関や民間事業者だけではなく、障害のある人の生活に関わるすべての人に適用される概念だと思います。笑顔と優しさを心がけたいですね。

A) 相手の気持ちや言葉の意図を想像したり、暗黙のルールを感じたり理解するのが苦手。

- ① 相手の言葉を文字通りに受け取り「ユーモアやお世辞、皮肉や比喩」を理解するのが苦手。
- ② 相手の声の「トーンや表情、手振り」から真意を読み取ったり、想像したりするのが苦手。
- ③ その場の「空気や、しきたりやしがらみ」等を理解するのが苦手。
- ④ 「何やってんの、それはダメ」などの抽象的な注意を理解するのが苦手。

B) 複数の事を同時に考える事が苦手。

- ① 同時にいくつもの仕事を指示せずに一つの仕事が終わってから次の仕事を伝える。
- ② 仕事の手順を次々と指示せずに一つずつその都度伝える。
- ③ 予定外の仕事に対しては変更の必要性や予定が遅れても良い事をやさしく伝える。

C) 後ろから突然の声をかけや、大声での話しかけは不安にかられたり、混乱します。

D) きつい言葉や乱暴な言葉とか厳しい態度は緊張させ、委縮させてるので言葉や態度はやさしくする。

## ちょっと一言

## 編集後記

生活スタイルを改善することで認知症の多くを予防できるそうです。

### ① 社会的な交流を保つ

社会的な交流を通じ孤立を防ぐことで、社会的知能を活性化され、社会生活の場で他人との交流、集団に参加していくことで神経細胞ネットワークを強化できると考えられています。

### ②脳を刺激する活動を行う

クロスワードパズル、カードゲーム、コンピュータゲーム、芸術品や工芸品の製作、後援の聴講、グループ討論、音楽の鑑賞などにはアルツハイマー病に対する効果があります。

### ③運動をする

運動や身体活動はその種類や強度に応じてアルツハイマー病の発症リスクを最大で65%まで軽減するのに役立つと言われています。運動は動脈硬化を改善し、血管疾患のリスクを低下させ呼吸機能を改善する。これらには体の炎症を軽減し、細胞寿命を延ばす効果があります。

### ④栄養バランスの良い食事

バランスのとれた健康的な食生活によって、アルツハイマー病の30%を予防できるそうです。新鮮な果物や野菜、精製されていない全粒穀物、脂肪分の少ない良質なたんぱく質をとり、ファストフードや加工食品を減らすことが必要です。

今回は、色々な講演会を掲載致しました。講演会に参加して感じられることは、様々であろうかと思われます。

主催者側は、その時期に適したテーマや講師の選定に腐心をされていることも十分伝わっております。

ベテラン委員の皆様は、以前にも同じ内容の講演を聴講されたり、広報誌「ひろば」に掲載された内容であったりして、若干もの足りなさを感じられる方もおみえになると思われますが、反面、若手委員の皆様は、大半が初めての内容の聴講で、何かを学ぼうという気持ちで吸収力も旺盛かと思われます。

そこで提案ですが、聴講後、皆さんで語り合いの場を作り、意見交換をされることにより、講師の思いが、より一層伝わるかと思われますが、如何でしょうか。